

あいさつ
理事長



公益財団法人岩手県体育協会

理事長 川口 仁志

(希望郷いわて国体総監督)

日頃より当協会の諸事業に対し、ご支援ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」の冬季大会は、スケート・アイスホッケー競技会が1月に盛岡・花巻・二戸の三市を会場として、また、スキー競技会は2月に八幡平市を会場として熱戦が展開されました。両競技会ともに運営スタッフの献身的なご努力に加え、多くの県民の皆さんが会場に足を運び、熱い声援を送っていただいたお陰で、完全国体の幕開けにふさわしい盛り上がった大会にさせていただきました。

両競技会における開始式も、本大会の開催趣旨である「全国から訪れるたくさんの人々を温かくお迎えするとともに、震災からの復旧・復興に支援をいただいた皆さんへ感謝を伝えよう」という気持ちが十分に伝わる感動の式典で、来県された都道府県本部団の皆さんから多くの称賛をいただきました。式典に参列した私も、震災に立ち向かいながら国体開催に歩んできた県民の皆さんの思いに、こみ上げる涙を抑えることができませんでした。

この冬季大会における本県選手の活躍は、報道各社が伝えてくれたとおり、目を見張る快進撃でありました。これまで選手の皆さんとは、『東日本大震災復興の架け橋』の冠称のもとで開催される地元国体は特別な意味を持った大会であること、そして、選手一人ひとりの頑張りが明日の岩手を切り拓く原動力になるものであることを何度も確認し合いながら、本県が掲げる目標の達成に向け、競技・種目や世代の枠を越えた“チーム岩手”として、持てる力を出し切ることを誓い合ってきました。冬季競技の本県選手団は、その期待に十分に答える活躍であったと思います。

冬季大会終了時における天皇杯第4位、得点178点という成果は、秋の本大会に向け確かな手ごたえを感じる成績であり、冬季選手たちの今国体にかけてくれた並々ならぬ覚悟と意気込みは、この後に続く本大会競技の本県選手の心にしっかりと受け継がれていくものと思います。

県民の皆さまには、今後とも、地域スポーツの振興とともに、「希望郷いわて国体」本大会、そして「希望郷いわて大会」の成功に向け、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。